

「受審」がどんなものかのイメージを社内の誰もが分かり易く簡潔に伝える。できるだけプラス指向で。

TQM活動の基本検討事項

(デミング賞受審のシナリオ)

TQM活動の現状認識。
全員で頑張れば何とかなるのイメージを抱かせることがポイント。

1. 受審単位について

本社1単位 1～1.5日

2. 現時点(××年10月デミング賞挑戦決意時)における状況認識

- ① TQMは96年度に方針管理をきっかけに導入、現場を中心とした品質管理活動により、□□における特殊技術力の開発・改良、向上を図り経営基盤の足固めをしてきた。
- ② 部門別の日常管理的なものは概ねできており、分掌業務上の役割は一応果たされている。
- ③ 業績関連の指標も目標近く達成され、年々向上してきている。
品質、安全についても大きな問題はなく、そこそこ向上してきてはいる。

これは最も重要・不可欠なもの。

3. デミング賞受審の意義・ねらいについて

- ① □□の中の特殊技術力を武器に経営基盤・企業体質のさらなる強化を図る。
別添資料「□□の特殊技術」、「□□特殊技術の開発・施工の経過」
- ② TQM活動の本格的実践により、不況社会の中、スピードを重視し一気に企業体質の改善を図る。(組織力、施工技術力、技術提案力、課題達成力、技術開発力、管理能力などの向上、品質・利益・安全性の向上、リードタイム・工期の短縮)
- ③ 個人的管理から組織力を発揮できる活力ある会社にする。

受審時における活動の到達目標を誰もがイメージできるように。

4. TQM活動のどんな効果で受審するか

機能別管理対応(プレゼンテーションの内容・ポイント)

- ① 業績が年々向上している(近年受注が微増ながら利益の向上が著しい、財務体質が強い)。
別添資料「業績の推移グラフ」
- ② 特殊技術の開発・施工
□□施工の特殊技術の開発・改良・現場施工において、効果的にTQMを活用し□□賞挑戦決定後は、さらに徹底したTQM活動の実践により開発力・技術力の向上をはじめ種々の効果を上げ業績に大きく寄与した。事例は少ないがQC手法の活用は高度である。
- ③ 方針管理
96年度より方針管理を開始し、98年度の後半それまでの中期経営計画を大幅に見直し、経営課題を新たに設定し同時に方針管理のしくみを再構築して、経営目標の達成を着実に進めている。方針が末端まで展開されその達成活動が活発である。
- ④ 現場運営管理
現場における品質・原価・安全・工期の確保を地道な活動で日常管理をよくやっており、品質不具合の予測・予防、原価低減活動、災害の未然防止活動が活発である。
これらのことにより、良い仕事をして顧客の信頼を確たるものにしていく。

⑤ 品質保証（含標準化，人材育成と能力発揮）

品質保証のしくみをうまく構築し，営業・技術・現場・協力会社が一体となり，顧客ニーズの収集・DR・施工計画・品質不具合の再発・未然防止の活動が活発である。技術の習得・継承のための標準化および人材育成についても良く取り組まれている。

これらのことにより，品質の保証・向上を図り顧客の信頼・満足を得ている。

⑥ 受注管理

□□施工の特殊技術を武器に営業活動を展開するため，技術提案のしくみを構築し，顧客のニーズを的確に把握し開発技術の提供と，現場の確実な施工により顧客の信頼を得て，受注高を確実に確保している。

部門別管理対応

- ① 方針が末端まで展開され，その達成の活動が活発で着実に効果を上げている。
- ② 日常業務が機能展開で整理され，管理項目がしっかり維持されている。
- ③ 問題点に対する解決意欲が高く，改善活動が確実な効果を上げている（件数は少ないが）。
- ④ 情報機器をうまく活用して小人数で業務をこなしている。
- ⑤ 現場の管理がしっかり確実に，まじめに地道に実施されている。

5. 受審準備の日程・スケジュールについて

別添資料「デミング賞受審推進計画」

活動の到達レベルと具体的実施事項を詳細に現したもの。実は相当に頑張らなければならないことが書いてある。

6. 受審体制と当面のスケジュール（年内）

（受審体制）

- ① TQM推進室の設置（済）とスタッフ
- ② TQM推進委員会メンバーの決定（済）：各重点活動のまとめ・推進のチーフ

（年内のスケジュール）

- ① □□賞受審計画の策定（済）
- ② 受審のシナリオ作成（済）
- ③ 品質管理活動に関する実情調査と説明書の作成

前項4に関する活動経過表の作成，各管理の現状のしくみ図作成と関連帳票の収集，概要説明文の作成

- ④ 同上に関するQC指導会のお願い（12月16日決定済）
- ⑤ 方針管理の再構築の準備：期末反省書他フォーマットの決定，中期経営計画の骨子

以上